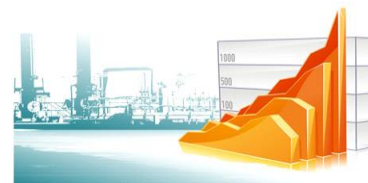


ぎふ経済レポート



令和3年10月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは 10月25日～27日を中心に実施し、11月10日時点で作成。

景気動向

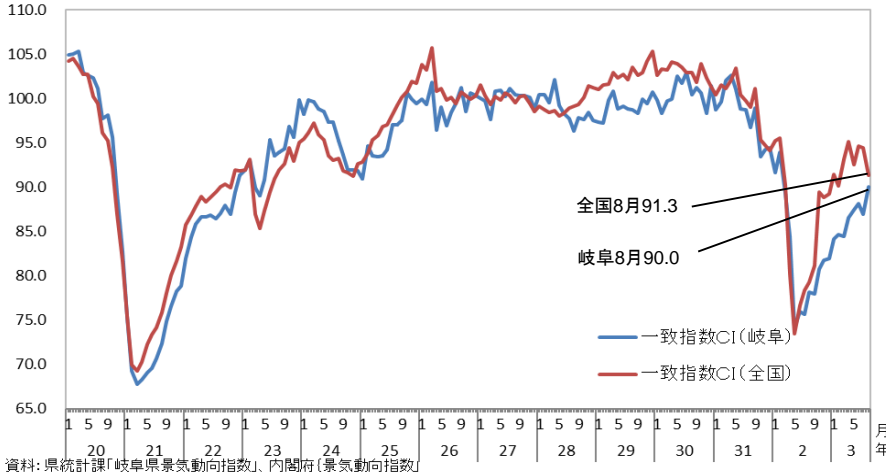
○8月の景気動向指数(一致指数)は、90.0で前月比3.1ポイント上昇した。

○9月の県内中小企業の景況感は、▲34で前月比▲5ポイント低下した。

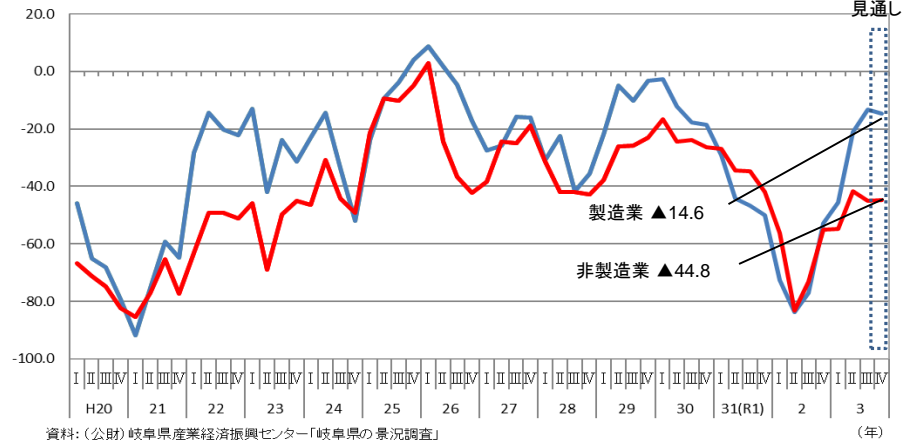
○10-12月期の景況DI見通しは、製造業で▲1.3ポイント低下、非製造業で0.2ポイント上昇した。

○同売上高DI見通しは、製造業で▲16.5ポイント、非製造業で▲5.1ポイント低下した。

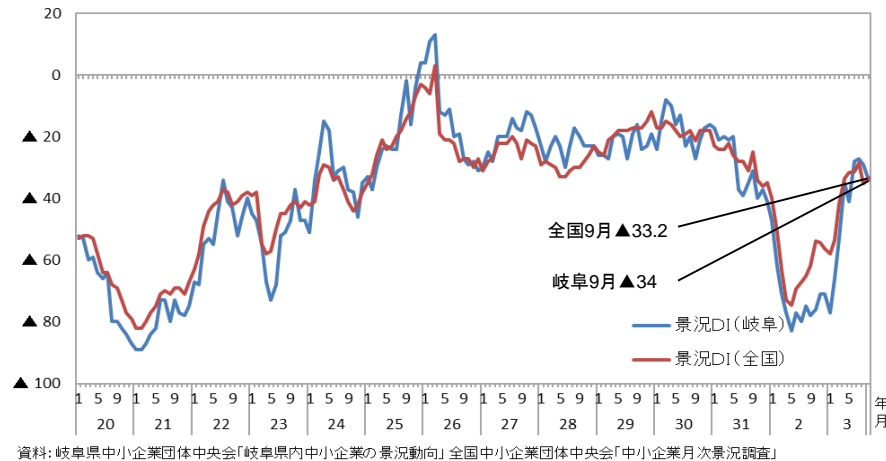
岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移 (平成27年=100)



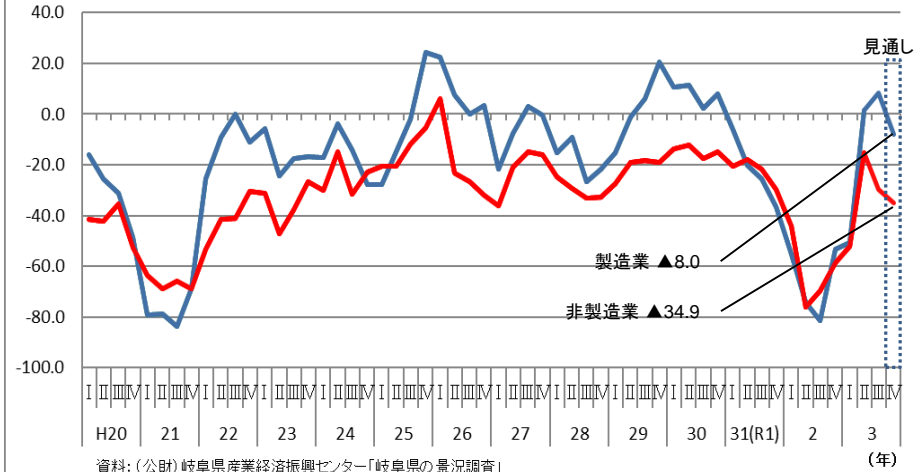
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移

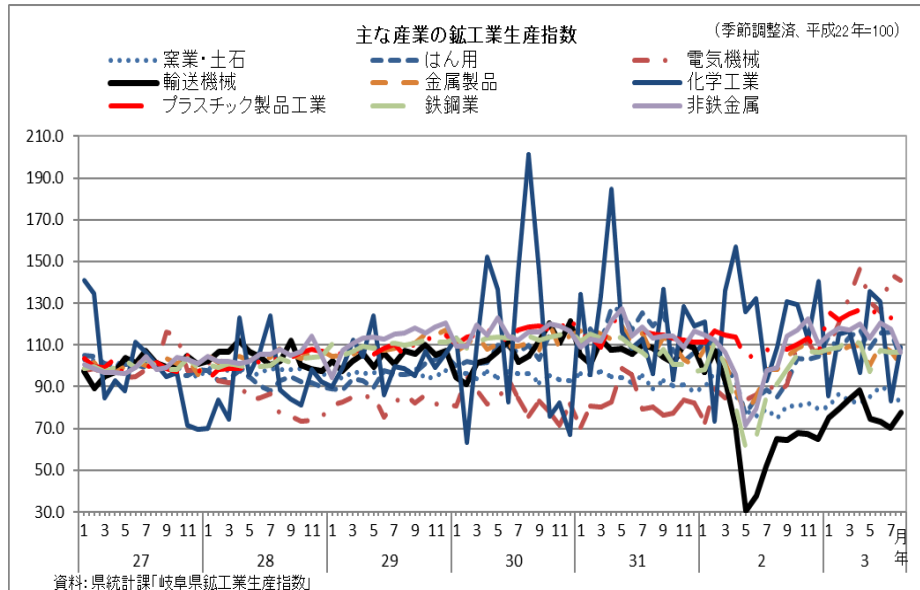
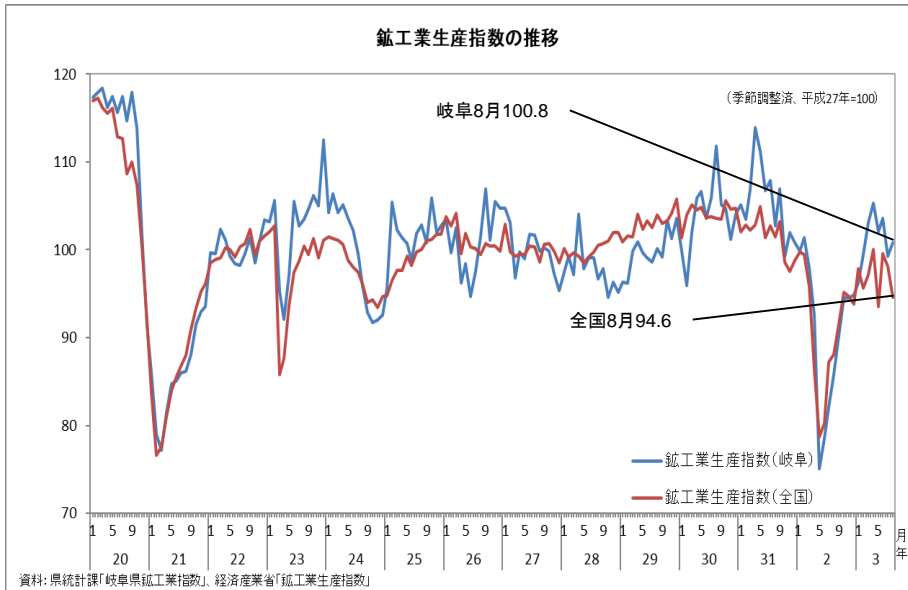


製造業

○8月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、100.8で前月比1.5%と上昇。

○主な産業の前月比では、化学工業、輸送用機械、プラスチック製品工業で上昇したものの、鉄鋼業で横ばい、はん用、非鉄金属、金属製品、電気機械、機械工業で低下した。

○8月の主な産業の指数は、化学工業で前月比30.6%、輸送用機械で同9.9%、プラスチック製品工業で同4.1%と上昇したものの、鉄鋼業で横ばい、はん用で同▲10.9%、非鉄金属で同▲9.8%、金属製品で同▲6.2%、電気機械で同▲1.9%、機械工業で同▲0.9%と低下した。



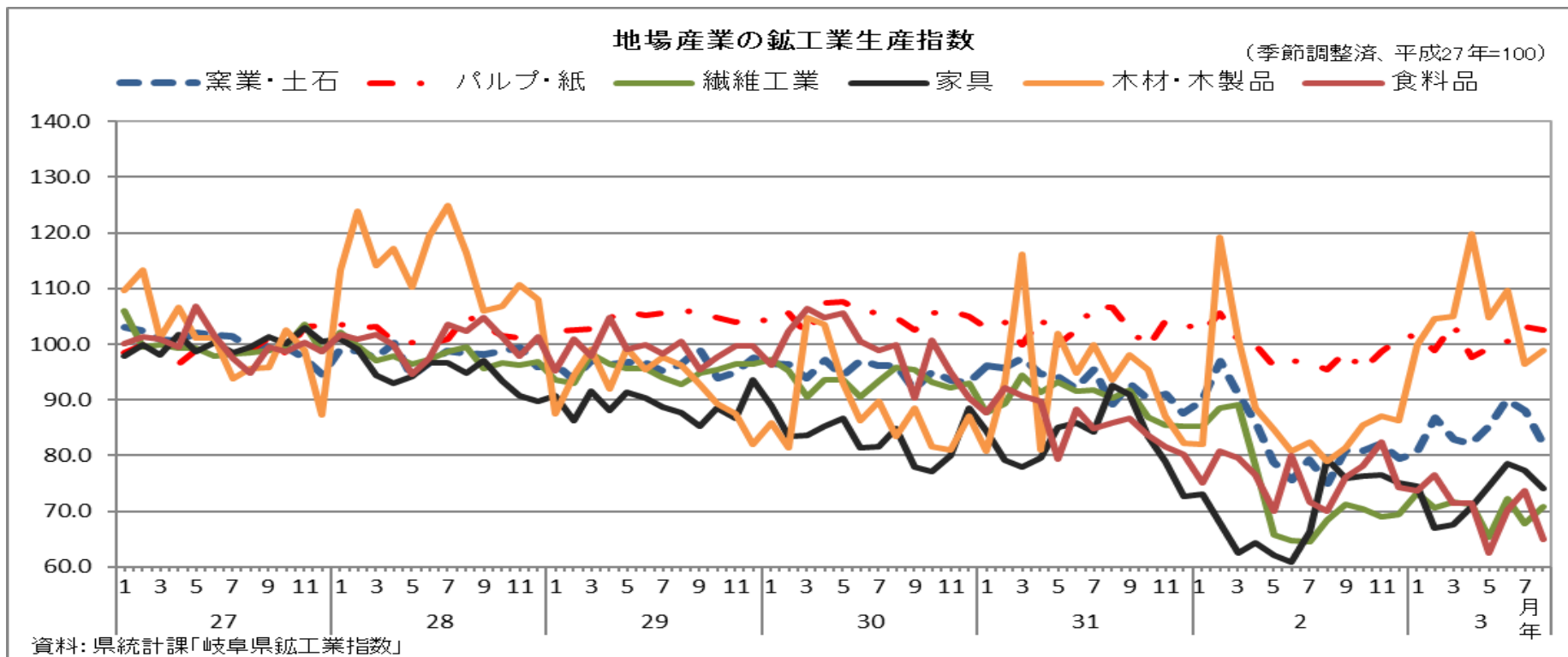
現場の動き

(※新型コロナウイルスや半導体関連、原材料価格の影響はP6にも掲載)

- ◆ 農機具関連では、輸出用エンジンの増産が続いている。今後も農機具や建設機械関連は安定した受注が続くと見込んでいる。(生産用機械)
- ◆ 引合や受注について、海外においては基本的に回復基調にあるが、国内では海外の状況と比較して回復は緩やかである。(生産用機械)
- ◆ 大手自動車メーカーの減産の影響が大きく、売上は計画比で▲20～▲25%となった。(輸送用機械)
- ◆ 受注が急激に落ち込み、10月は週休日を増やした。(生産用機械)

製造業-2

○8月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、繊維工業で前月比4.7%、木材・木製品で同2.5%と上昇したものの、食料品で同▲11.8%、窯業・土石で同▲6.4%、家具で同▲4.1%、パルプ・紙で同▲0.7%と低下した。



現場の動き

(※新型コロナウイルスや半導体関連、原材料価格の影響はP6にも掲載)

- ◆ EC販売で試行錯誤を繰り返し、徐々に販売方法を進化させた。販路を変えることで売上を伸ばしている。(繊維)
- ◆ 7月～9月の平均では前年同期比で売上は4割程減少したものの、緊急事態宣言解除後はコロナ前の7～8割の水準まで回復している。(紙)
- ◆ まだ売上に影響はないが、直営店に来客が増え始めた。(木工)
- ◆ 緊急事態宣言等は解除されたが、まだ取引に動きがない。(窯業)

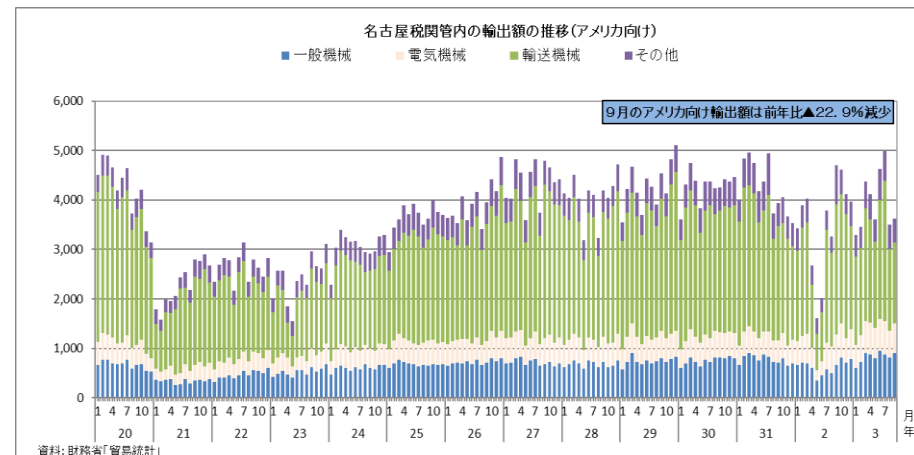
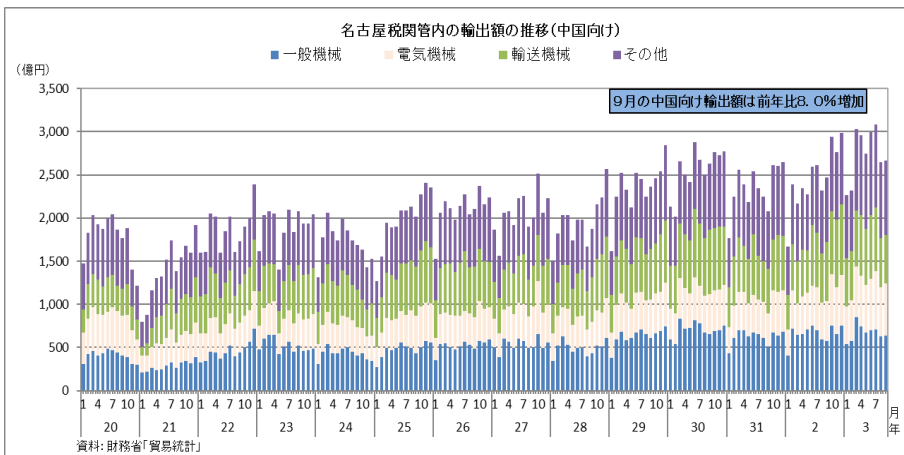
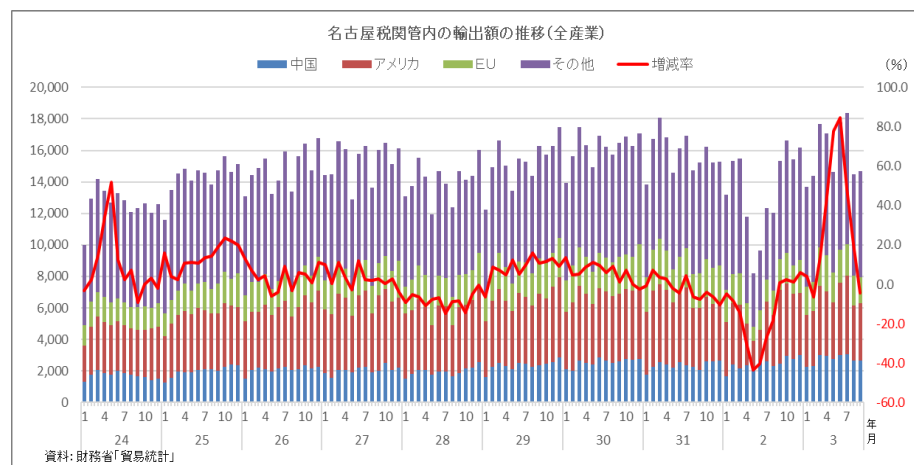
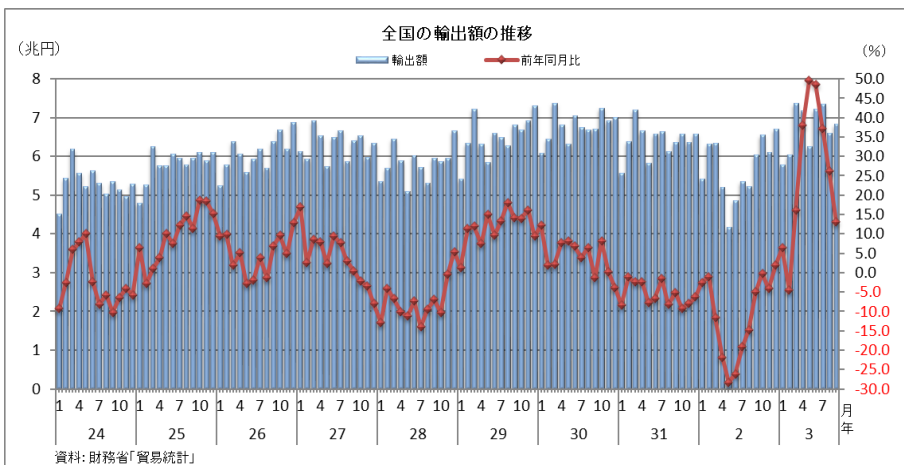
輸 出(名古屋税関管内)

○9月の輸出額(全国)は、6兆8,410億円で前年同月比13.0%増加した。

○9月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆4,467億円で前年同月比▲4.4%と減少し、7ヶ月ぶりに前年同月を下回った。

○中国向けは、全体で前年同月比8.0%増加した。その内、電気機械で同31.6%、一般機械で同10.1%増加し、輸送機械で同▲18.0%低下した。

アメリカ向けは、全体で前年同月比▲22.9%減少した。その内、一般機械で同37.3%増加し、輸送機械で同▲37.3%、電気機械で同▲4.9%低下した。



製造業関係における新型コロナウイルスの影響について

- ◆ 売上は急激に回復傾向にある。10月最終週から旅館やキヨスクからの受注が増えている。(食品製造)
- ◆ 宣言等の解除後は、遠方への出張が行きやすくなった。(非鉄金属)
- ◆ 当社においては、従業員の間で飲酒を伴う会食により感染が生じてしまうと工場のラインを止めなくてはならないため、従業員へ自粛を呼びかけるなど、引き続き厳しい基準でリスク管理を行っている。(輸送用機械)
- ◆ 海外との取引を進めることができない状況が継続している。(電気機械器具)

供給制約の影響について

- ◆ 東南アジアからの部品供給不足等の影響が続いており、少なくとも年内は現在と同程度の生産の落ち込みが続く見通し。(輸送用機械)
- ◆ 自動車業界全体が、半導体不足や東南アジアでのコロナのまん延による部品供給の停滞、中国の電力不足によるアルミ等金属の供給不足により大きな影響を受けており、現時点では良化する要素が見つけられない。(輸送用機械)
- ◆ 半導体不足により取引先が減産しているため、当社も一人当たり6日間の休業を実施した。(輸送用機械)
- ◆ 取引先の生産調整の影響を受け、当社も一部のラインを止めている。(非鉄金属)
- ◆ 半導体に留まらず、供給の遅延や不足は電装品全般に波及しつつあり、納期の長期化やコストアップなどの影響が生じている。(生産用機械)
- ◆ 調達部門における納期調整の労力が増大している。(はん用)

原材料価格について

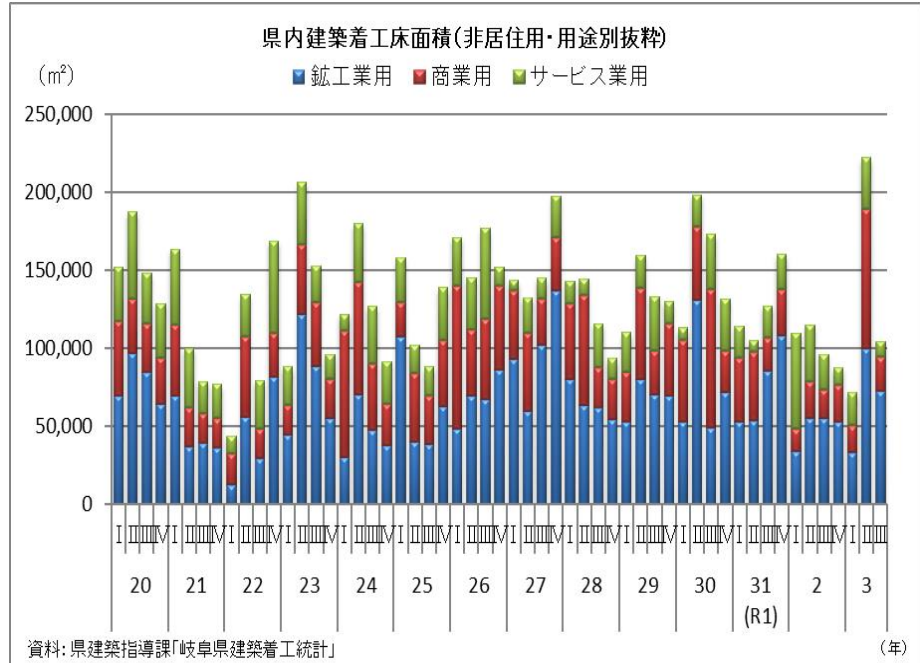
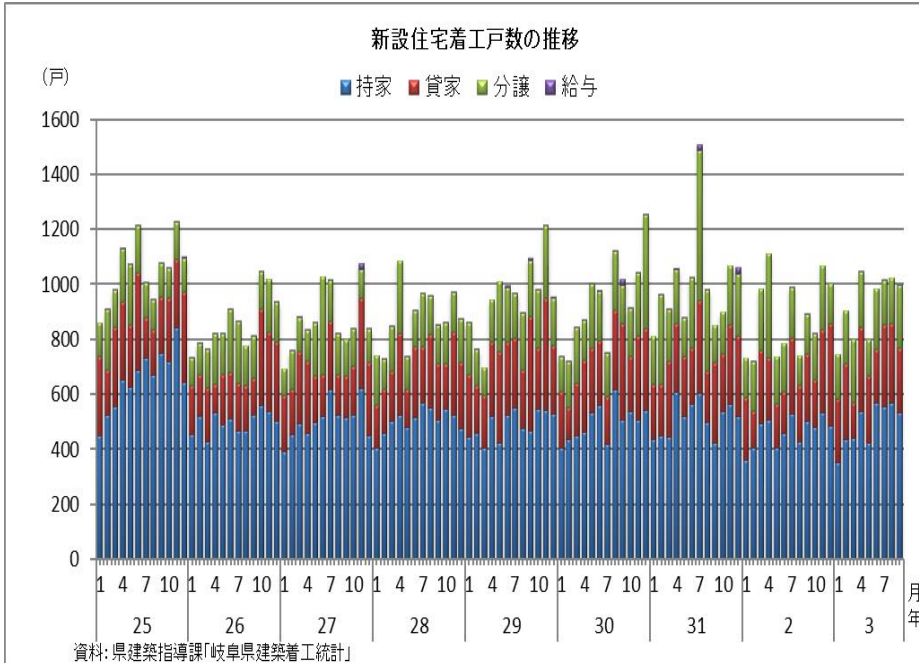
- ◆ 対前年同月比では売上増加を見込むが、原材料の大幅な値上げにより、収益が大きく圧迫されている。原料樹脂の価格は、2020年7-9月期をボトムに、以降四半期ごとに値上げが続いている。(輸送用機械)
- ◆ アルミやシリコンの価格の高騰が続いている。年内はさらに高騰が続く見通しであり、年明けには調達することができなくなってしまうのではないかと危惧している。(輸送用機械)
- ◆ 原油価格高騰に伴いガス価格も値上がりしているため、エネルギーコストが上昇している。今後もさらに値上がりが進むと見込んでいるため、取引先との間で価格交渉を行うことを検討している。(輸送用機械)
- ◆ 鉄の価格上昇が続いており、ついにリーマンショック直前の高値水準を超えた。入手が困難になってきた材料もあり、今後の生産活動に影響が出る恐れがある。(生産用機械)
- ◆ 原油価格が想定以上に高騰しており、収益が圧迫されている。(プラスチック製品)
- ◆ 木材、鉄材、段ボール等のコストが高騰しており、一部商品の値上げを行った。(紙)

住宅・建築投資

○9月の住宅着工戸数は、前年同月比12.0%と増加した。

○分譲で前年同月比59.3%、持家で同6.6%増加し、貸家で同▲5.7%減少した。

○7-9月期の非居住用の建築着工床面積は、サービス業用で前年同期比▲53.9%と減少したものの、鉱工業用で同32.9%、商業用で同14.6%と増加し、全体として同8.9%と増加した。



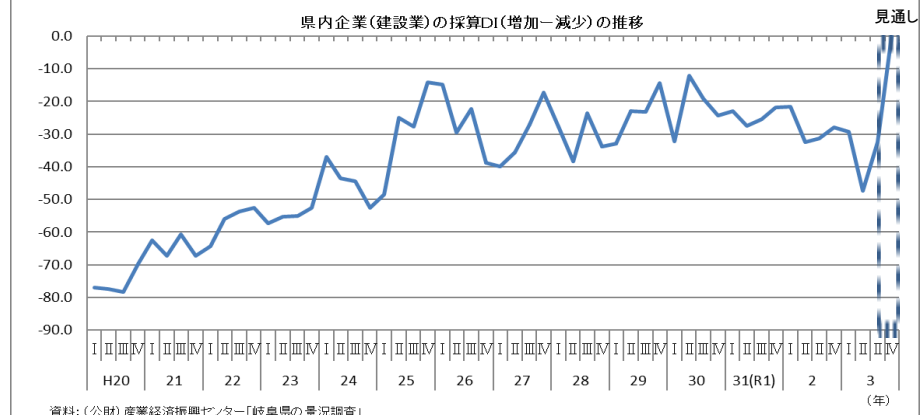
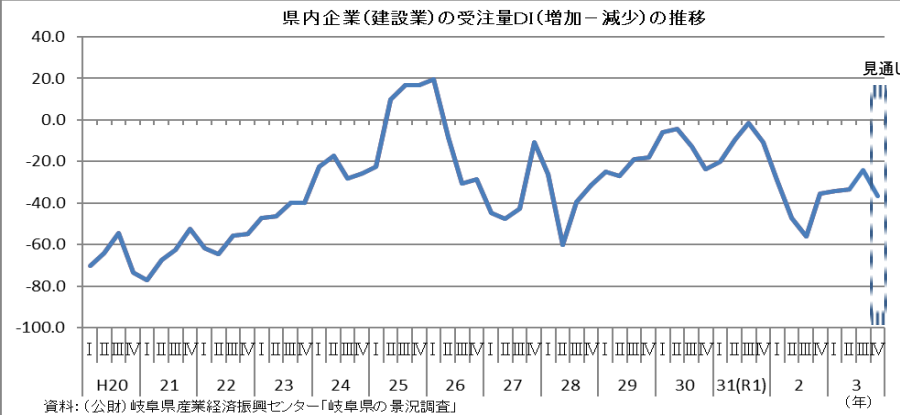
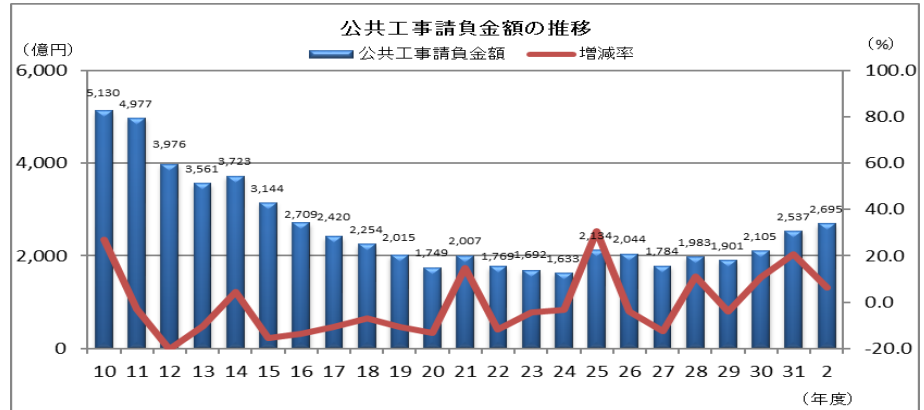
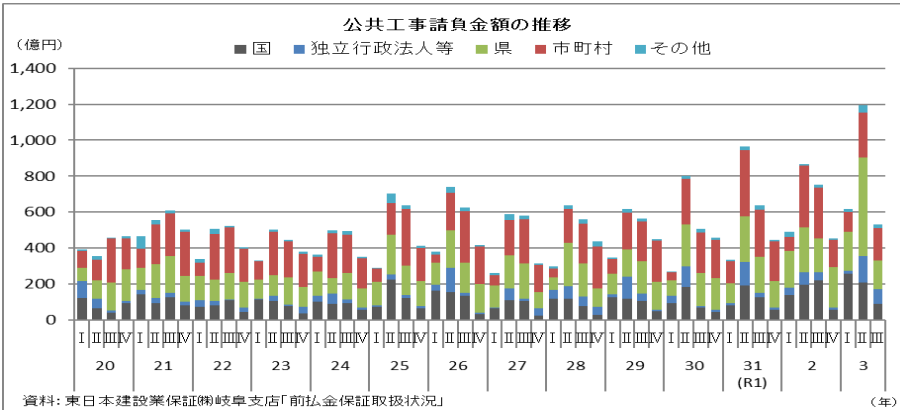
現場の動き

<ウッドショックの影響も含む>

- ◆ プレカット部門においては、今年度はフル稼働状態が続いている。(市場)
- ◆ ヒノキ価格の高騰を受けて現場はヒノキの伐採に注力しているため、スギが入ってこない。(組合)
- ◆ 海外工場の生産休止によって、住宅用設備機器の一部が在庫不足となっている。(工務店)
- ◆ 木材、資材の価格が上昇している。(工務店)

公共工事

- 7-9月期の発注者別の公共工事請負金額は、独立行政法人で前年同期比86.9%と増加したものの、国で同▲58.6%、市町村で同▲35.4%と減少するなど、全体で同▲29.5%減少した。
- 県内建設業の10-12月期の受注量DI見通しは前期比12.6ポイント、同採算DI見通しは同32.4ポイント上昇した。



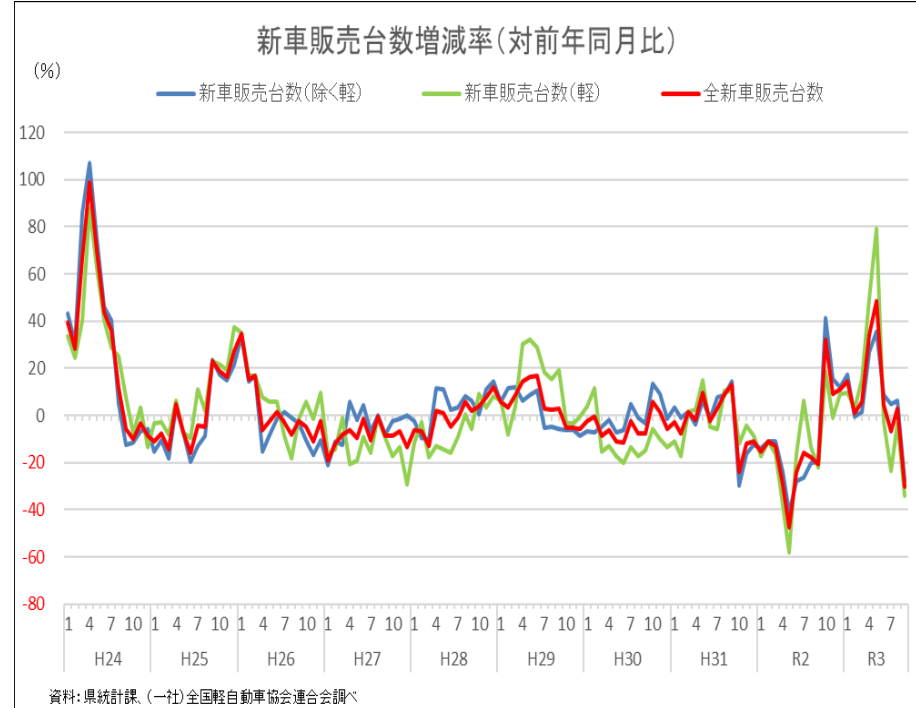
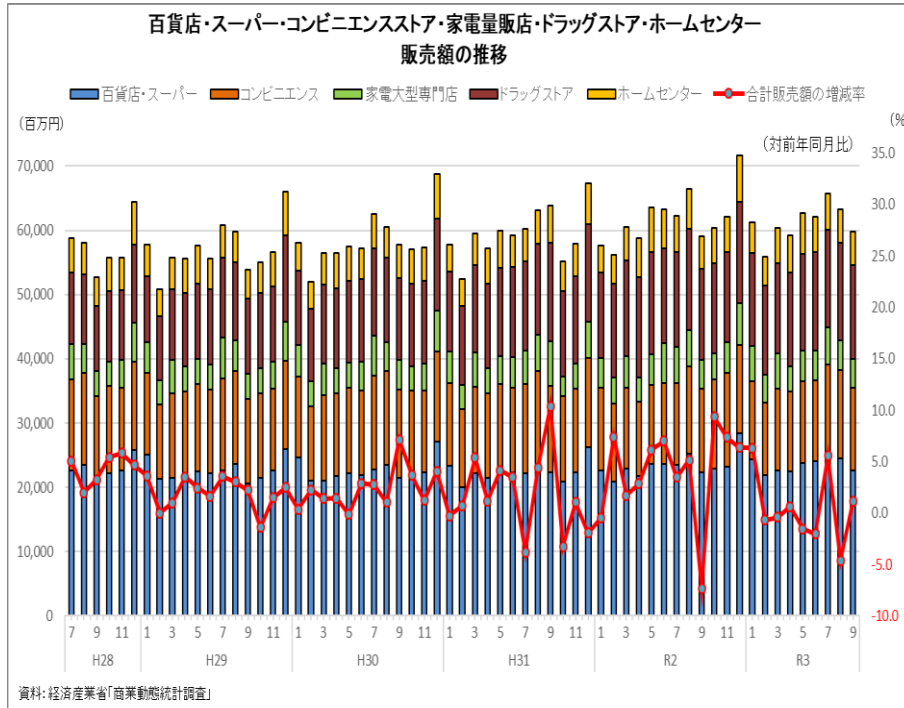
現場の動き

- ◆ 発注量の地域格差が大きいと感じている。
- ◆ 協力業者と早期の打ち合わせを行い、人材を確実に確保できるよう取り組んでいる。
- ◆ 今後多数の発注が控えているため、入札不調・不落の発生が懸念される。(以上、建設)

個人消費(流通・小売)

○9月は家電大型専門店が前年同月比で▲3.3%減少し、コンビニで横ばいとなったものの、ドラッグストアで同3.4%、ホームセンターで同2.7%、百貨店・スーパーで同1.0%と増加し、全体で同1.2%と増加した。

○9月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比▲27.7%と7ヶ月ぶりに前年同月を下回った。軽自動車は同▲34.2%と4ヶ月連続で前年同月を下回った。合算では同▲30.0%と、前年同月を下回った。

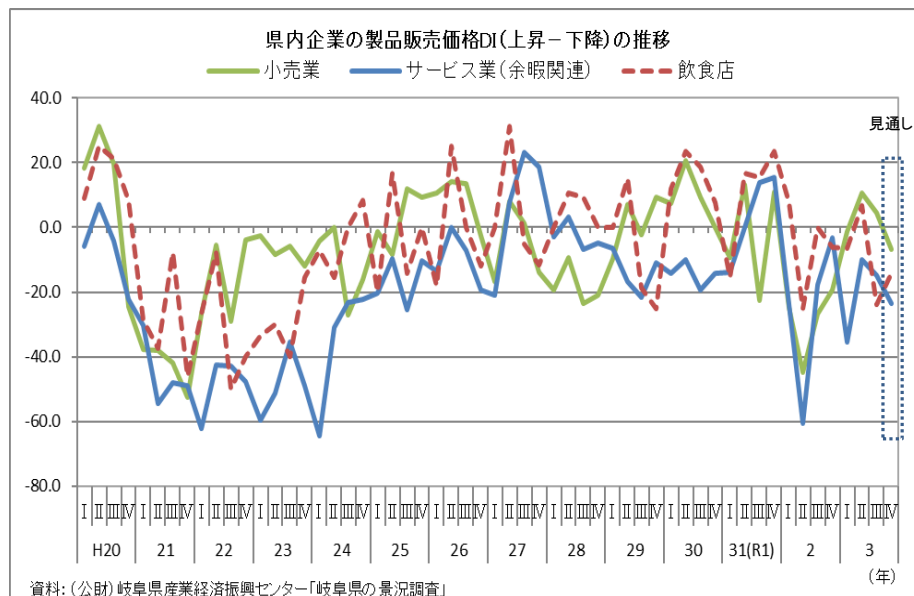
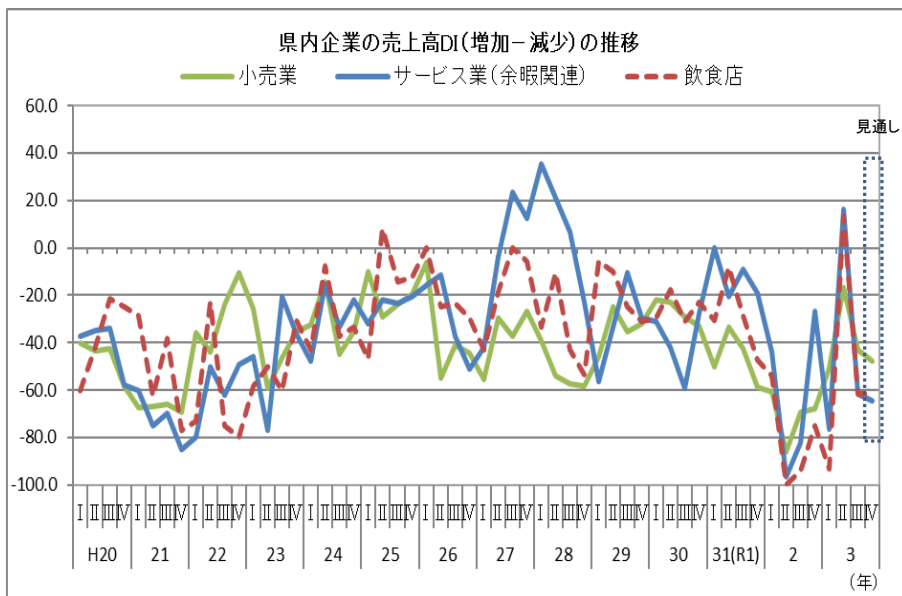


現場の動き

- ◆ ワクチンの接種状況や感染者数の動向が、消費に繋がっていると感じている。
- ◆ 半導体不足により自動車生産が遅れているため、納期の目途がつかず、新車注文のキャンセルが発生している。
- ◆ 緊急事態宣言解除後の来店客数は回復傾向にある。
- ◆ 商品の原料値上げが消費の冷え込みに繋がらないよう、PB商品などを訴求している。(以上、県内商業施設)

個人消費(流通・小売)－2

- 10－12月期の売上高DI見通しは、小売業で同▲4.5ポイント、サービス業(余暇関連)で前期比▲3.0ポイント減少、飲食店で横ばいとなった。
- 同じく販売価格DIは、飲食店で前期比9.5ポイント増加、小売業で同▲11.3ポイント、サービス業(余暇関連)で前期比▲8.8ポイント減少した。



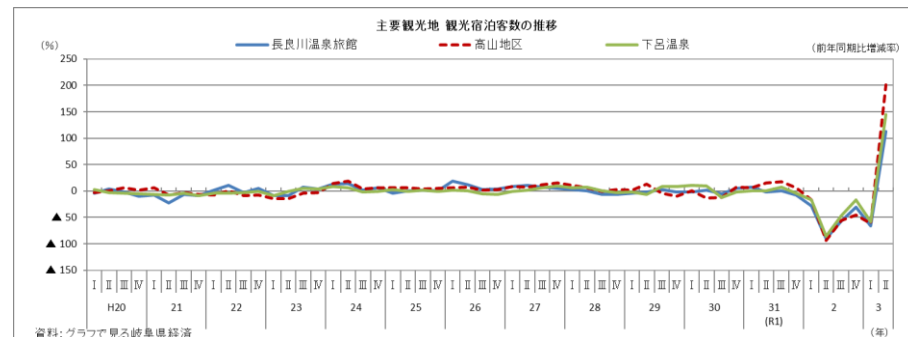
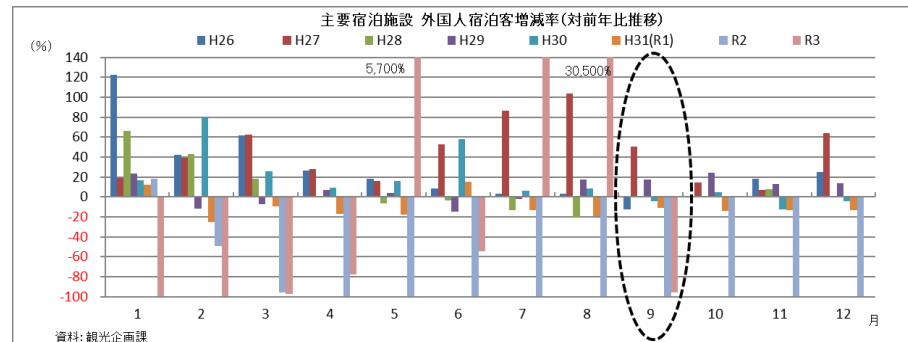
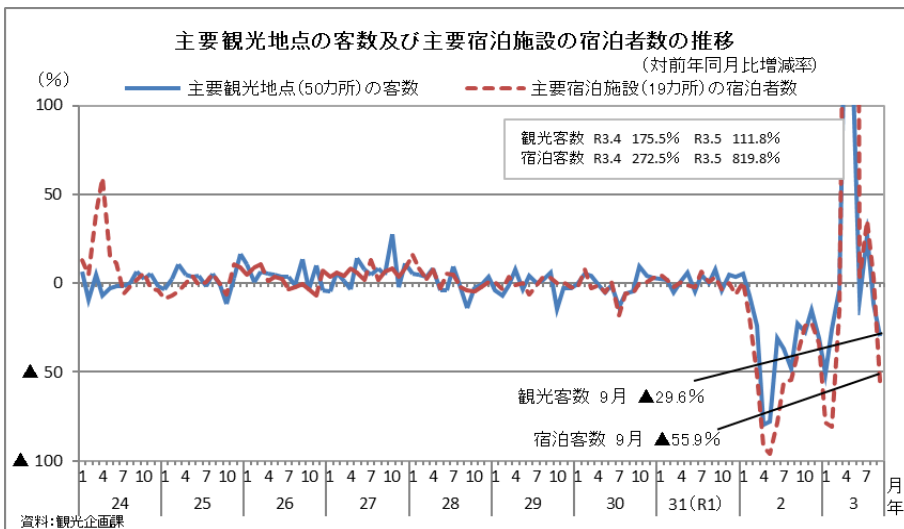
現場の動き

- ◆ 緊急事態宣言解除後にイベントを再開したが、出店者数を縮小しており、以前のような賑わいには及ばない。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 日用・雑貨店の売上は前年同月比で▲10%と減少。県商店街振興組合連合会や市が実施するプレミアム商品券事業に期待。(大垣市商店街)
- ◆ 家電販売店の売上は前年同月比で▲20%と減少。電気工事の受注は増えているが、物販が伸びておらず、リベンジ消費は感じられない。カメラ・プリント店では同比で横ばい。人出の多さが消費に結びついていない。消費者はまだまだ慎重であると感じる。(高山市商店街)
- ◆ 酒類販売店の売上は前年同月比で横ばい。緊急事態宣言解除後、飲食店の来店客にはばらつきが見られ、コロナ禍前の売上水準には遠く及ばない。(多治見市商店街)

観光

- 主要観光地における9月の観光客数は、前年同月比▲29.6%、コロナ前の前々年同月比では▲45.9%となっている。
- 主要宿泊施設における宿泊者数は、前年同月比▲55.9%、前々年同月比では▲76.0%となっている。

- 9月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比▲95.7、コロナ前の前々年同月比で▲99.9%となっている。

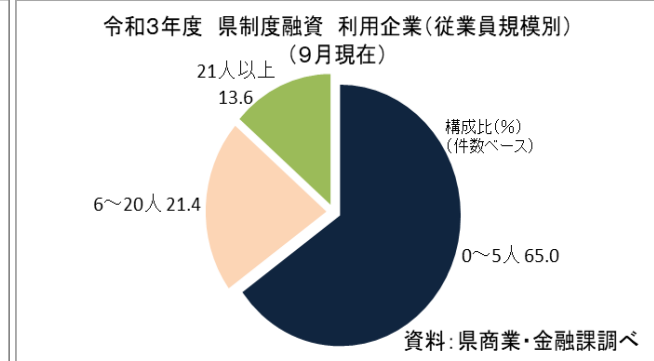
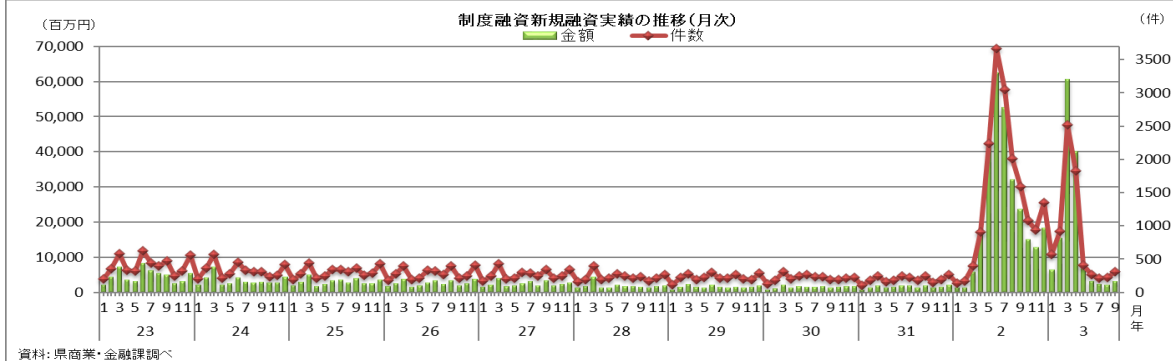
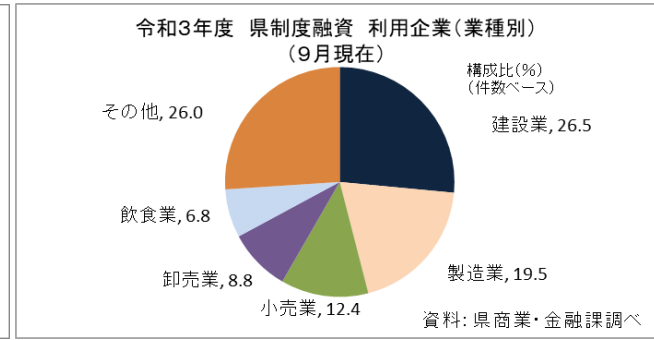
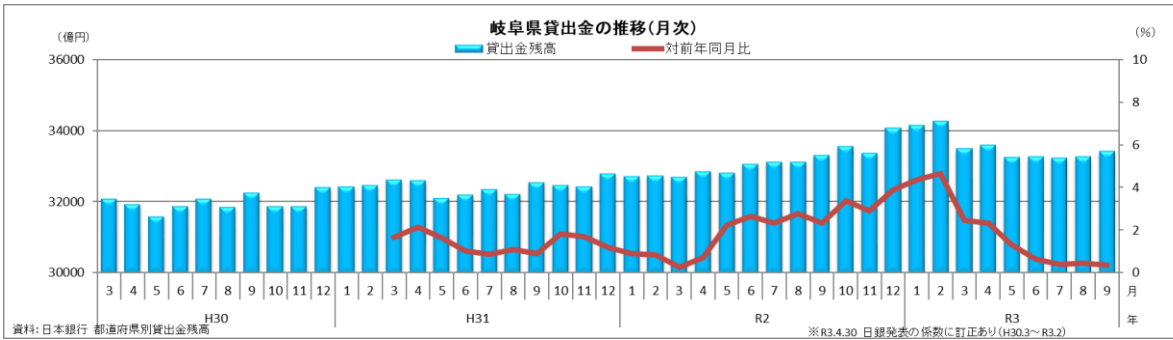


現場の動き

- ◆ 10月、11月に関しては、修学旅行の動きが出てきている。(岐阜市、郡上市の宿泊施設)
- ◆ 予約が週末に集中し、平日は厳しい。11月の予約はまだこれからであるが、小グループ旅行の問い合わせが発生している。(下呂市の宿泊施設)
- ◆ 10月以降、ビジネス出張による需要が多くなっているものの、平日の予約状況はコロナ前と比較すると約55%の減少となっている。(多治見市の宿泊施設)
- ◆ 昨年秋はGo Toトラベルの期間で宿泊予約があったが、今年は緊急事態宣言の影響により前年比で大幅に減少している。(岐阜市、奥飛騨の宿泊施設)
- ◆ 新型コロナウイルスの感染拡大第5波の影響でかなり多くの団体旅行が取り消しとなった。(奥飛騨の宿泊施設)

資金繰り

- 9月の岐阜県貸出金残高は、3兆3,422億円で前年同月比0.3%とプラス基調が続く。
- 9月の制度融資実績は、金額が3,282百万円で前年同月比で▲86.2%、件数は306件で同▲80.7%と、いずれも5ヶ月連続で減少した。
- 従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の65.0%を占めている。

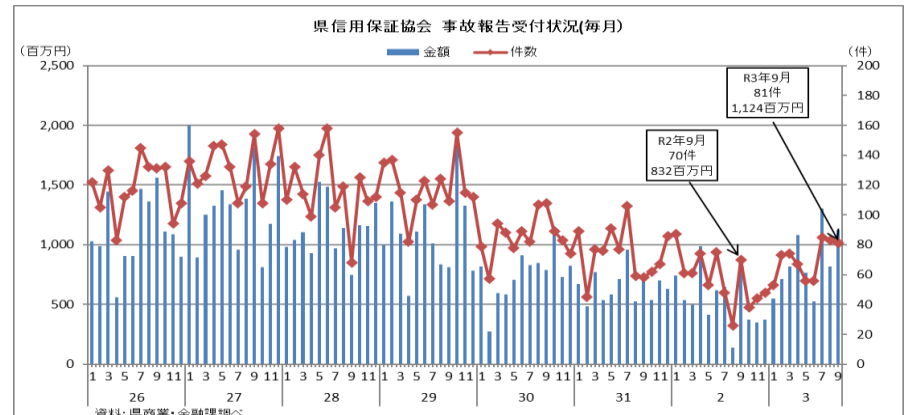
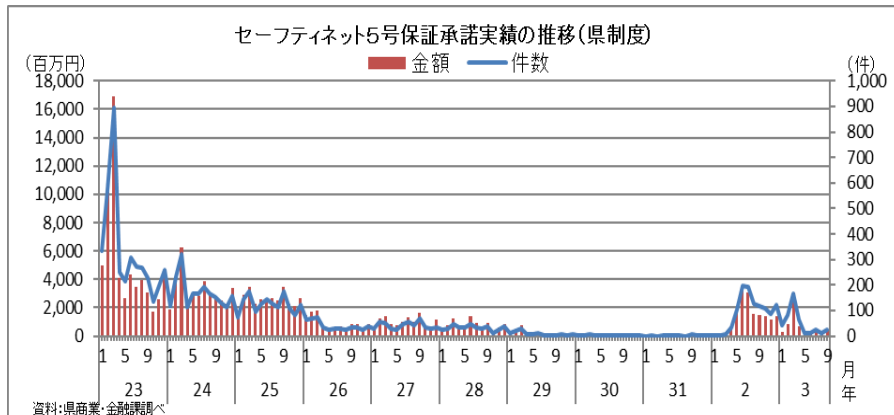
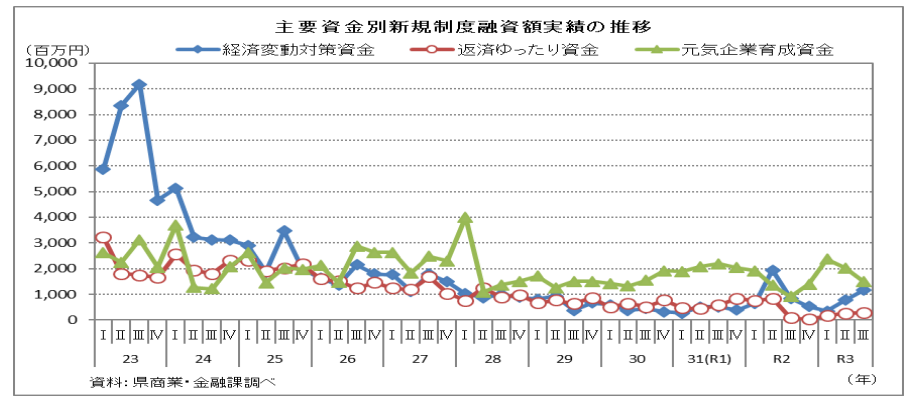
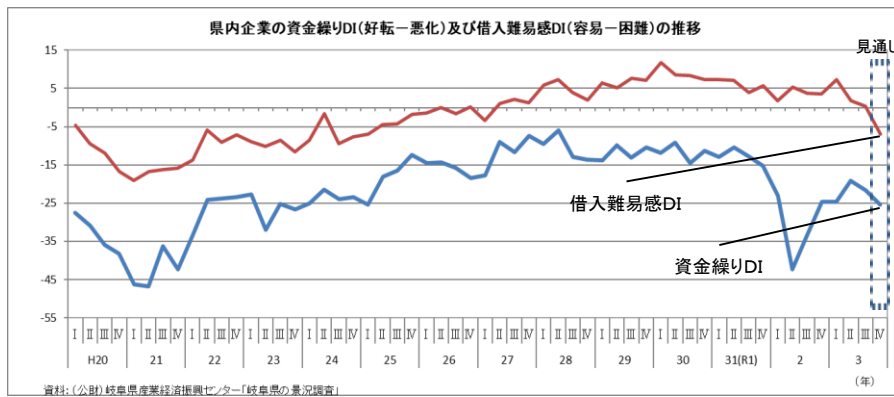


現場の動き

- ◆ 資金需要は弱い。法人預金は高止まりしており、手元資金がまだあると思われる。
- ◆ 実質無利子無担保融資による手元資金が減ってきているのか、県の制度融資の新型コロナ経営改善資金の利用が増えてきている。
- ◆ 為替や原油価格の動向は取引先の収益性や資金繰りの悪化に直結するため、今後の決算数値を注視している。(以上、金融機関)

資金繰り-2

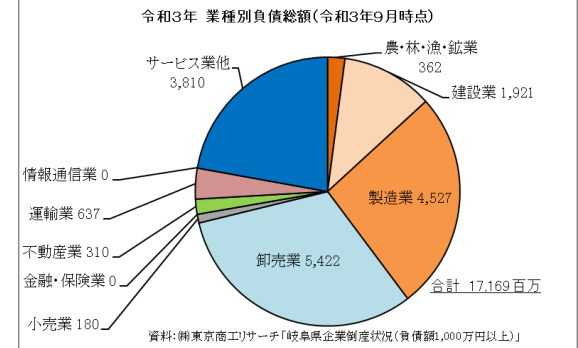
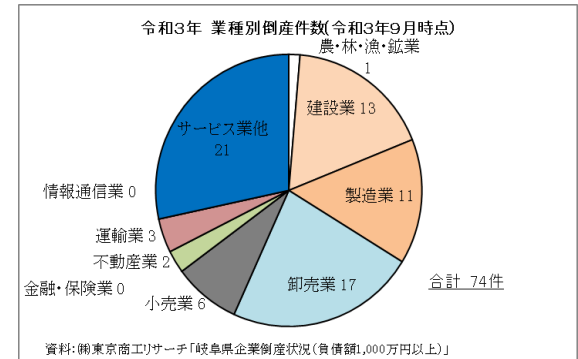
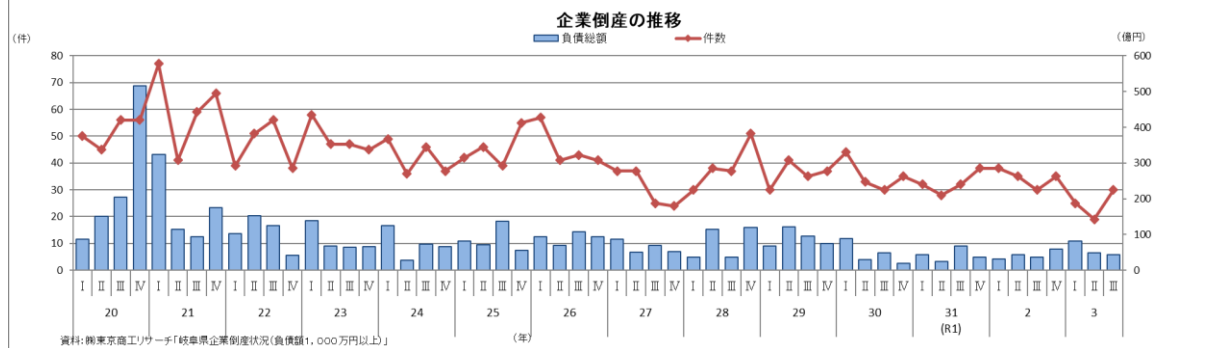
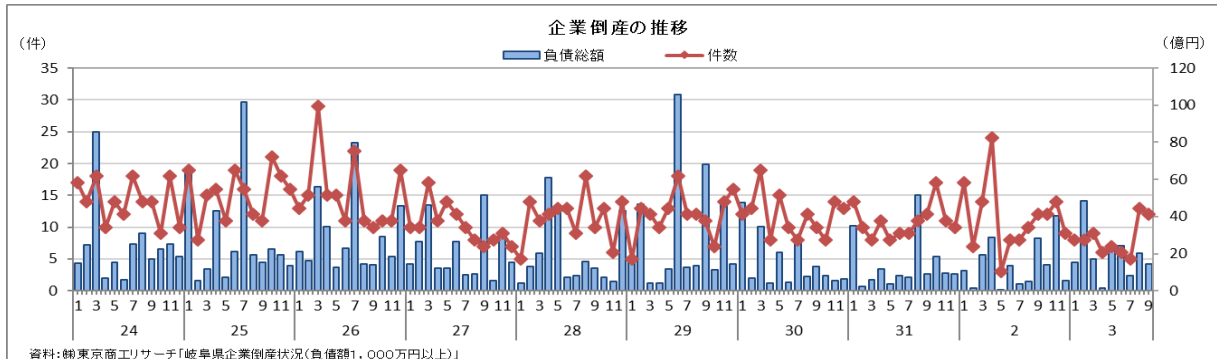
- 10-12月の資金繰りDI見通しは▲25.4で、前期比▲3.8ポイント低下した。同借入難易感DI見通しは▲7.0で、同▲7.3ポイント低下した。
- 7-9月期の主要資金別新規制度融資実績は、返済ゆったり資金で同214.9%と5期ぶりに増加、元気企業育成資金は同63.4%と3期ぶりに増加、経済変動対策資金で前年同期比36.4%と3期ぶりに増加となった。
- 9月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が23件で前年同月比▲94件減少、金額は385百万円で同▲1,123百万円減少した。
- 9月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は81件で前年同月比15.7%増加、金額は1,124百万円で同35.1%増加した。



倒産

○9月単月の倒産件数は前月比1件減少の12件、負債総額は前月比589百万円減少の1,434百万円となった。

○1月から9月までの累計倒産件数は74件となり、前年同期の103件から29件減少。累計負債総額は17,169百万円となり、前年同期の11,163百万円から6,006百万円増加で推移した。



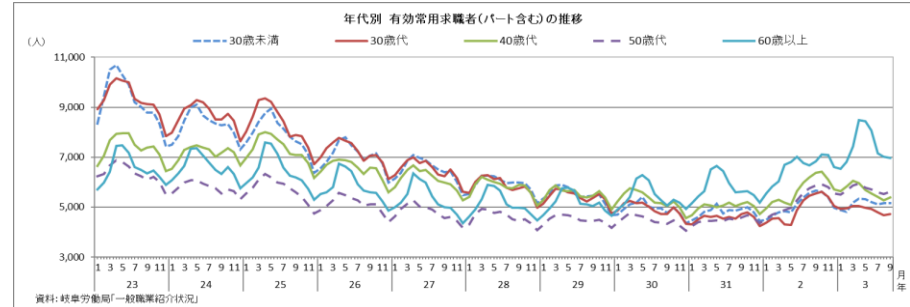
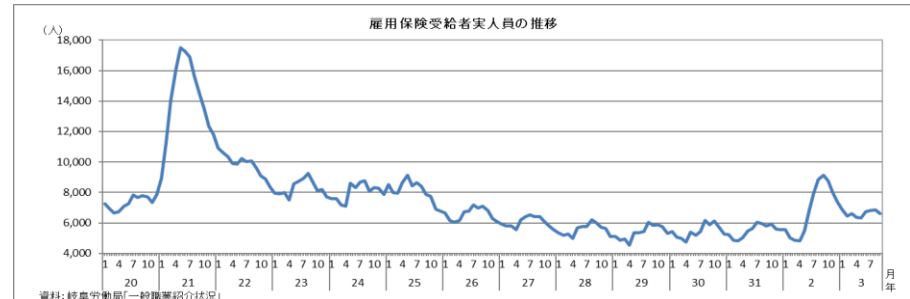
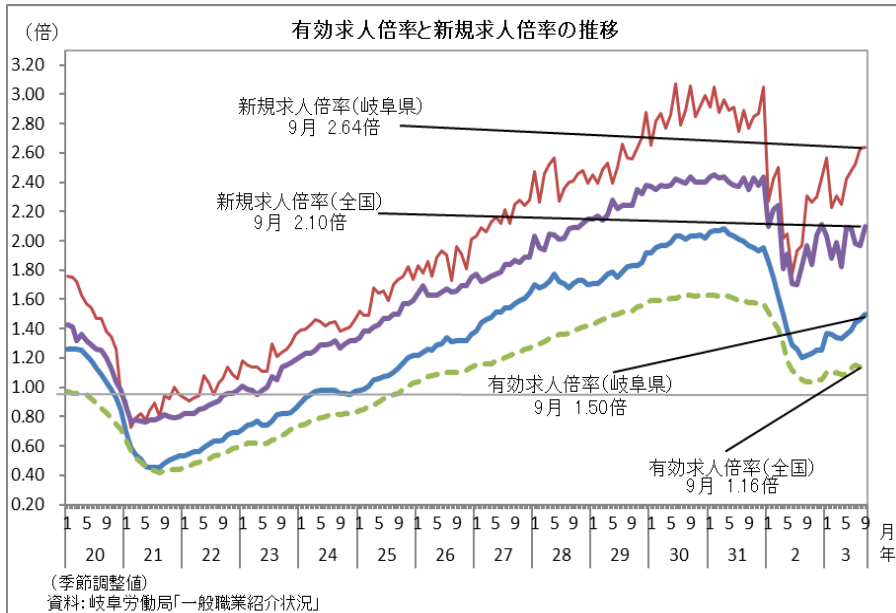
専門機関の分析(東京商工リサーチ、10月20日時点)

◆ 「緊急事態宣言」の全面解除と感染者数の減少で、飲食や観光業を中心に需要回復への期待が高まっている。但し、地域によっては営業時間の短縮要請やイベント規制などが継続し、当面はサービス業の流動的な事業環境が続く見通し。コロナ関連の金融支援策は継続するが、業績不振が長期化し過剰債務の問題も浮上している。経営体力の低下による息切れのほか、経済活動の再開に伴う資金需要の高まりに対処できない企業が増加することも懸念されている。

雇用

- 9月の有効求人倍率は1.50倍と、前月比0.04ポイント上昇した。
- 9月の新規求人倍率は、2.64倍と同0.01ポイント上昇した。

- 9月の雇用保険受給者人員は、前月比▲3.4%と減少した。
- 有効常用求職者は、60歳以上を除き前年同月比で減少した。



現場の動き

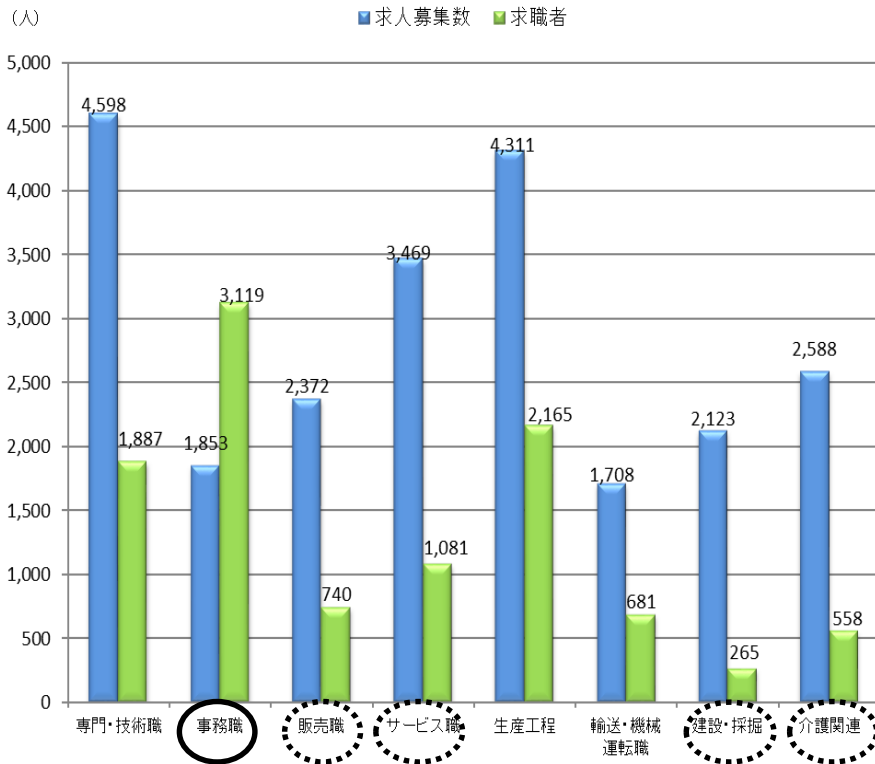
- ◆ 雇用調整助成金が頼りで、従業員を交代で休ませている。(繊維)
- ◆ 9月末までは雇用調整助成金を活用していたが、10月からは通常通りの稼働へ戻した。(紙)
- ◆ 人手に余剰がある会社から人を派遣いただき、人材不足を補っている。(はん用)
- ◆ 技術系の人材に不足感がある。(電気機械)
- ◆ 採用活動のため工業高校等を訪問している。今年度は企業側の求人が多いと感じている。(生産用機械)
- ◆ 現在は受注量が減少しているため人手に余剰があるものの、今後大手自動車メーカーの生産が回復すれば人手は不足することが予想される。(プラスチック製品)

雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で8.01倍、介護関連で4.64倍、サービス職と販売職で3.21倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。
 ○一方で、事務職の有効求人倍率は0.59倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

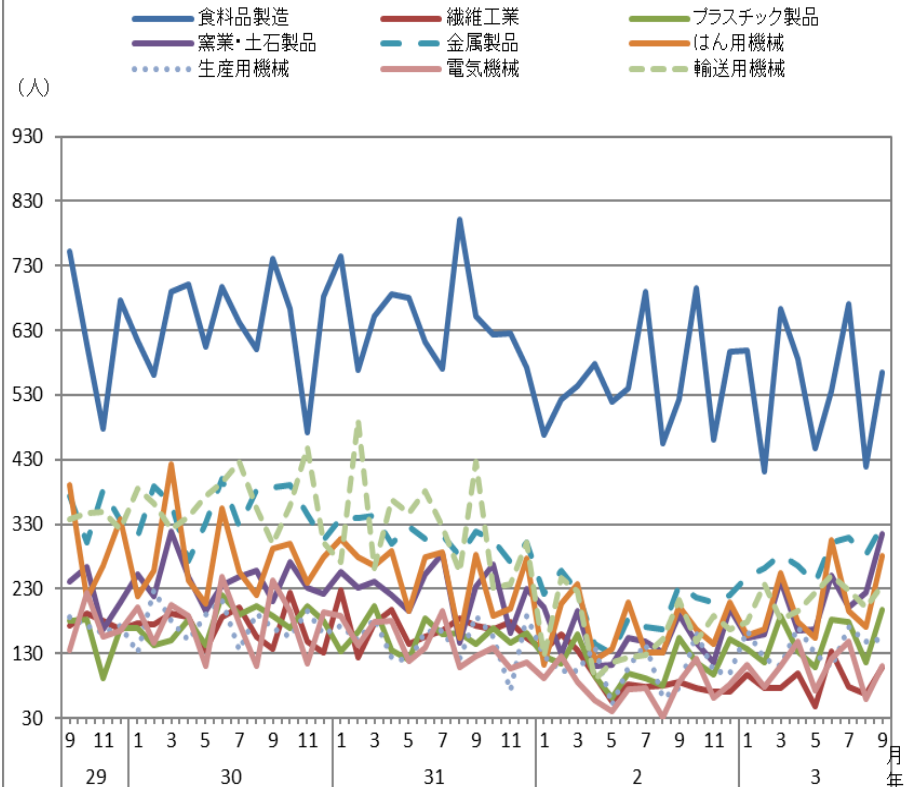
○9月の主要産業別の新規求人数は、生産用機械で同83.6%、窯業・土石製品で前月比61.4%、金属製品で同40.4%、はん用機械で同33.0%、繊維工業で同32.6%、プラスチック製品で同30.9%、食料品製造で同17.1%、輸送用機械で同12.0%、電気機械で同1.5%と増加した。

9月 職業別有効求人募集数・有効求職者数(常用的フルタイム)



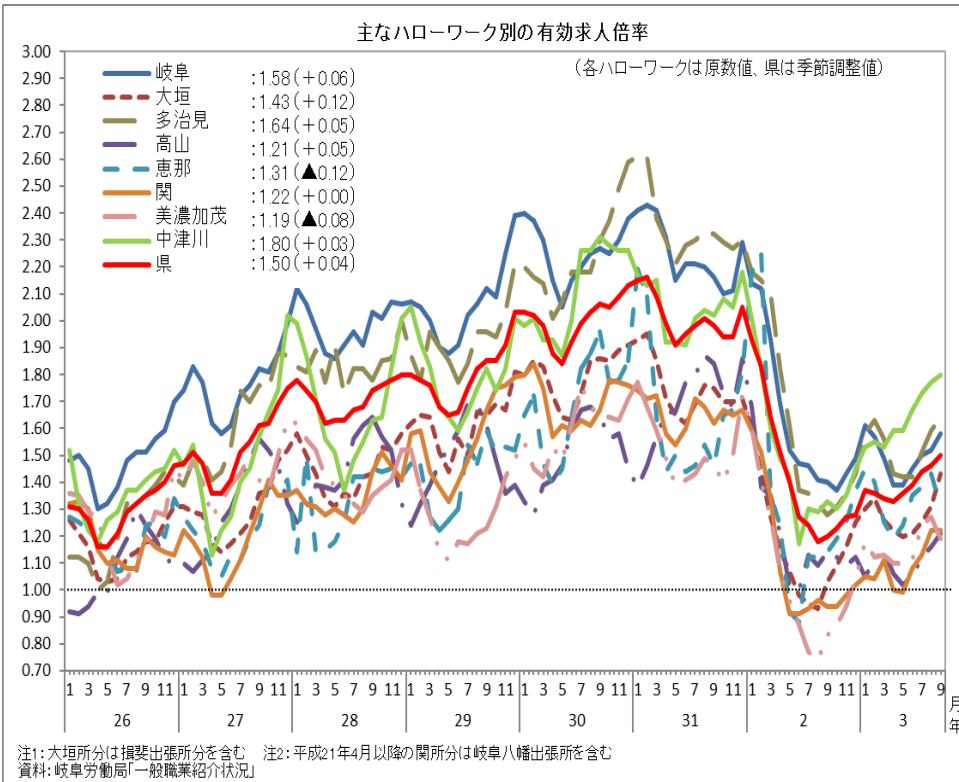
資料: 岐阜労働局「求人・求職バランスシート」

主要産業別 新規求人数(一般+パート)推移



資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

雇用(地域別)



○9月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、恵那と美濃加茂のみ低下した。

現場の動き(前月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は低下。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや低下。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<窓口の様子> ※前月比

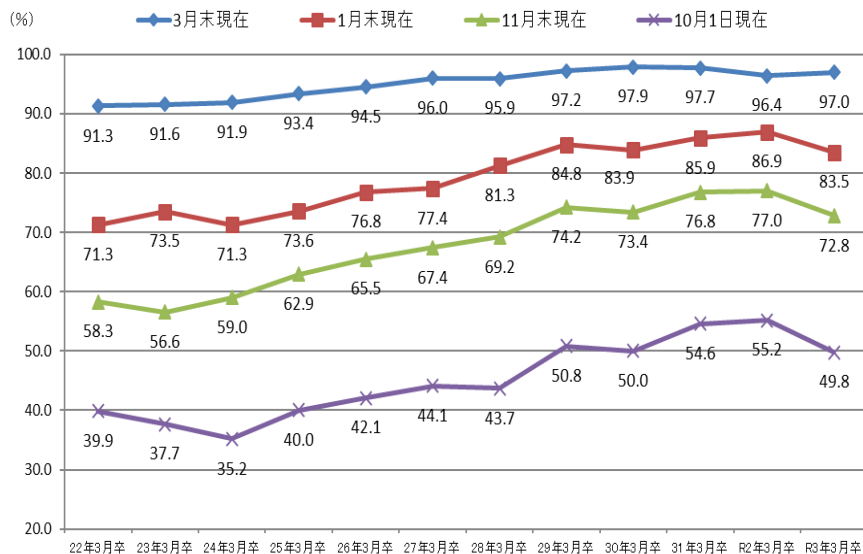
- ◆岐阜のみ混雑傾向にあった。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○岐阜県の令和3年3月末時点の大学・短大卒業者(令和3年3月卒業)の就職内定率は、97.0%であり、前年同時点と比べ0.6ポイントと上昇した。

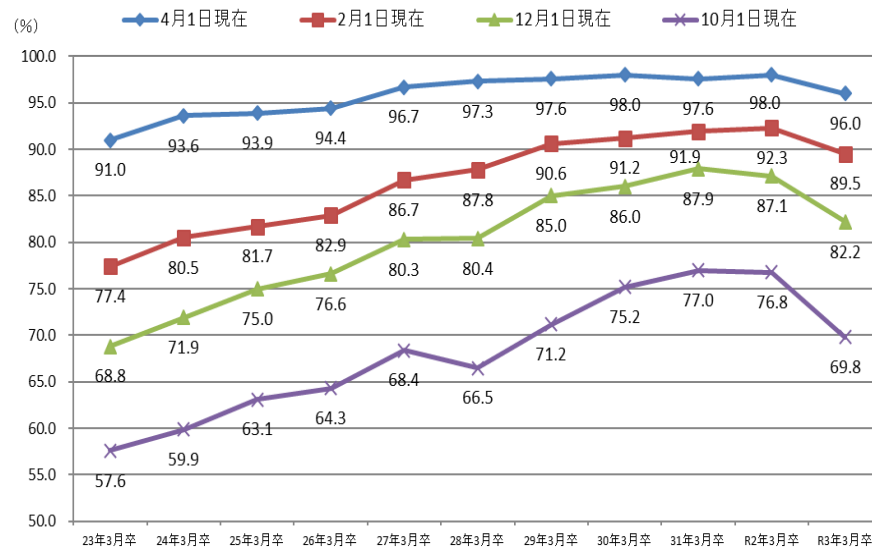
○全国の令和3年4月1日現在の大学卒業者(令和3年3月卒業)内定率は96.0%であり、前年同時点と比べ▲2.0ポイントと低下した。

新規卒業者(大学・短大)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業業者(大学・短大)の就職内定状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き(2022卒の動きなど)

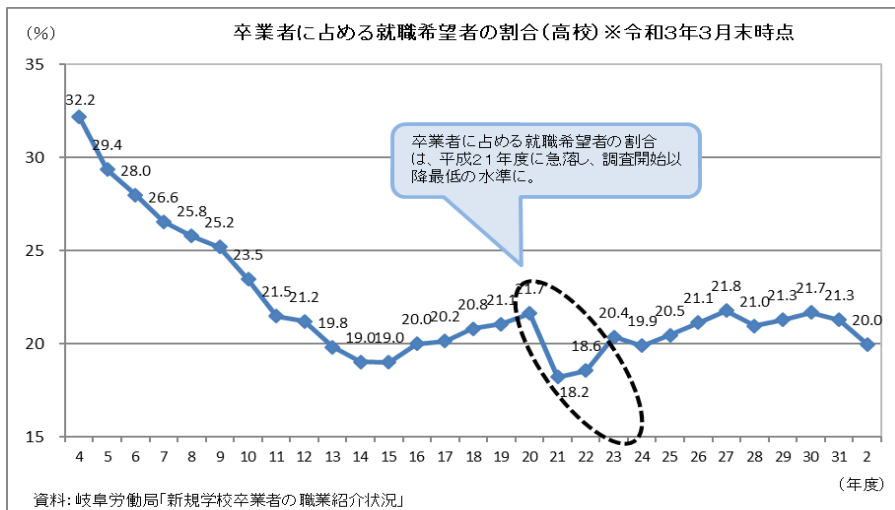
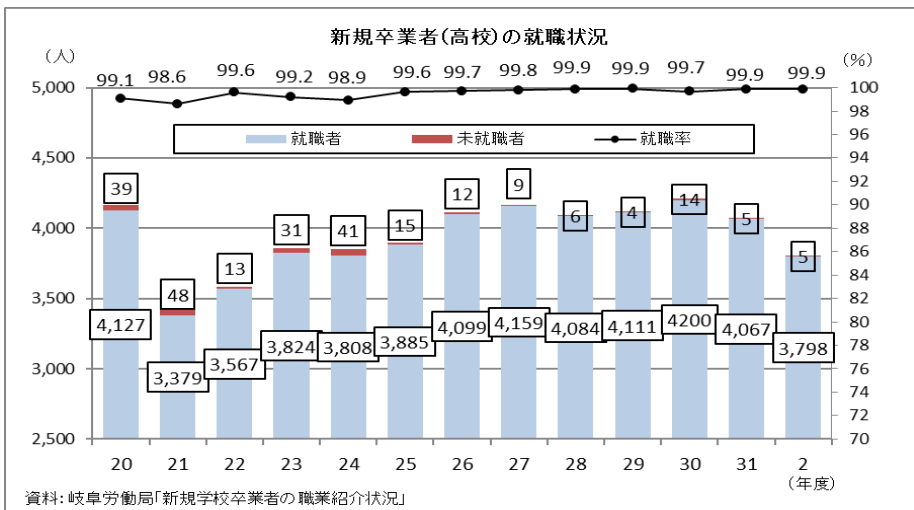
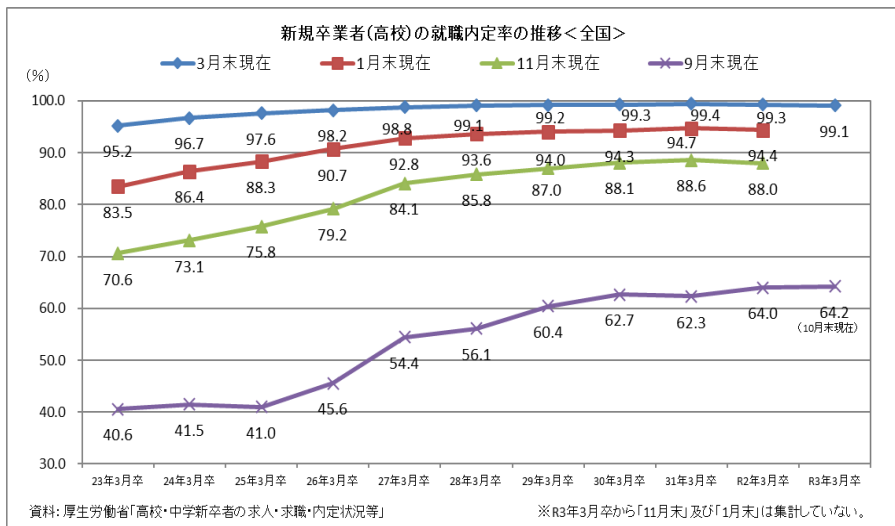
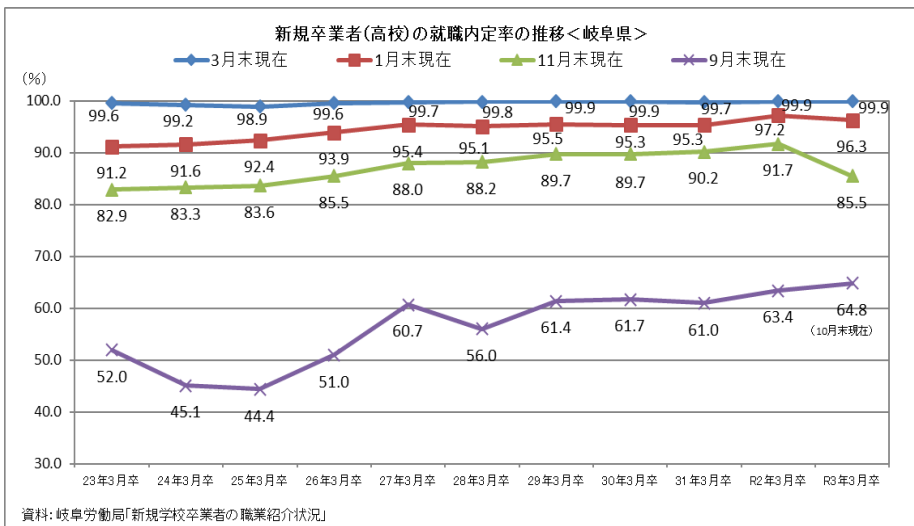
<大学へのヒアリング>

- ◆ 22卒の内定率は一昨年の水準に戻りつつある。22卒からの相談は落ち着いている。
- ◆ 23卒からはエントリーシートの添削の相談があるものの、相談件数は少ない。(以上、岐阜県内大学)
- ◆ 11月から複数企業を招いた業界研究会を予定しているが、学生の予約状況が芳しくない。
- ◆ 10月から後期ガイダンスを実施しているが、理系学生の参加が減っている。(以上、愛知県内大学)

雇 用(高校新卒者の就職)

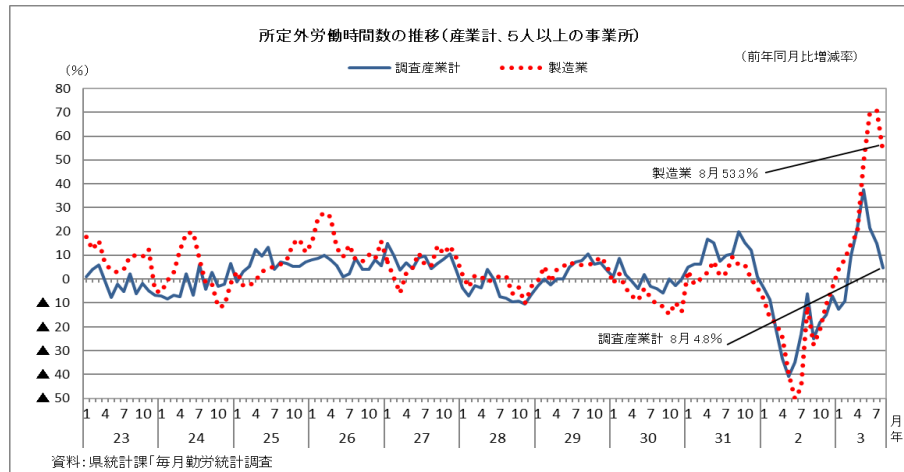
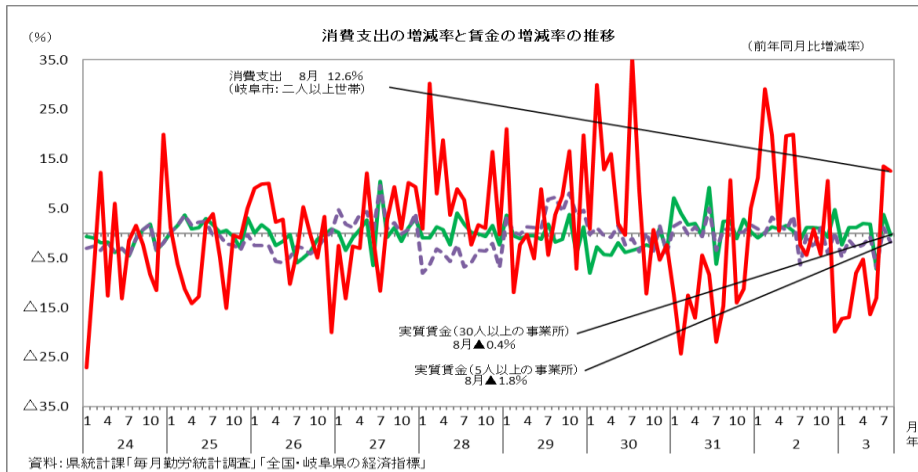
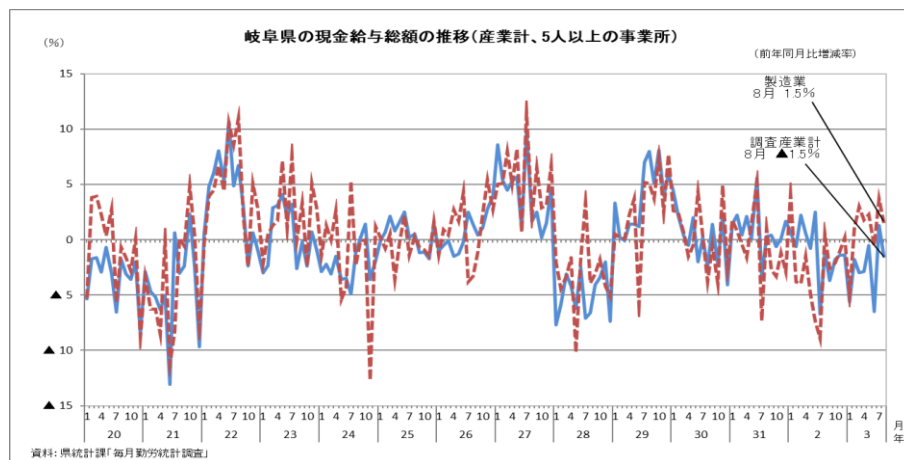
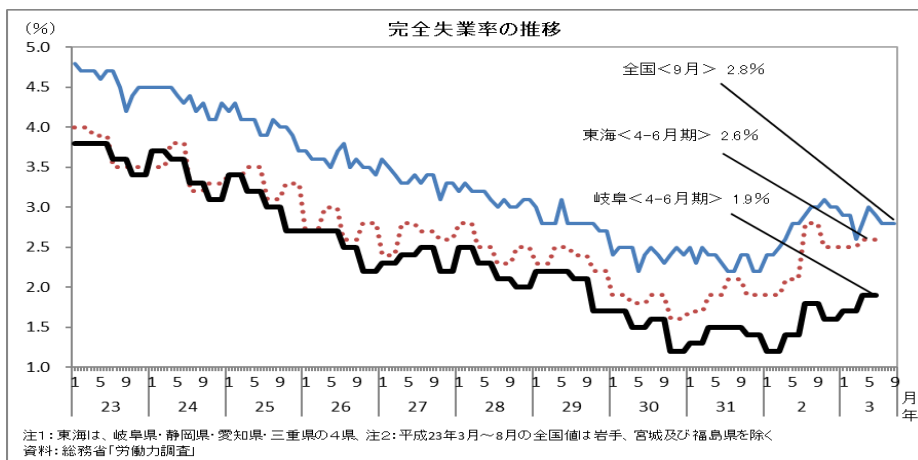
○岐阜県の令和3年3月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は99.9%であり、前年同時期と同水準となった。

○全国の令和3年3月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は99.1%であり、前年同時期と比べて▲0.2ポイント低下した。



雇 用(完全失業率等)

- 全国の9月の完全失業率は2.8%で前月比横ばい。岐阜県の4-6月期の平均は1.9%で前期比0.2ポイントと上昇。
- 8月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比▲1.5%減少、製造業で同1.5%と増加。
- 8月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所は前年同月比▲0.4%、5人以上の事業所は同▲1.8%と減少。8月の消費支出については同12.6%と増加した。
- 8月の所定外労働時間数は前年同月比4.8%増加し、6ヶ月連続で増加した。



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、8月の鉱工業生産指数は前月比1.5%と上昇。ヒアリングでは、一部で増産の動きや今後も安定した受注が見込まれるとの声があった一方で、半導体や部品等の供給不足による生産活動の停滞や原材料価格の高騰による収益性の悪化を懸念する声がか月に引き続き多く聞かれた。
- 地場産業は、8月の鉱工業生産指数は、繊維工業と木材・木製品を除いて低下した。ヒアリングでは、EC販売等によって売上を伸ばしている企業の動きがあったものの、緊急事態宣言解除後も取引に動きが見られないとの声も聞かれた。
- 設備投資は、8月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比で71.9%増加した。ヒアリングでは、補助金を活用してコロナ後を見据えた設備投資をしているとの前向きな声も聞かれたが、金融機関からは、足元の取引先の設備投資の動きは新型コロナウイルス感染症を理由に延期していたものであり、積極的な設備投資は多くない、との指摘もあった。
- 個人消費は、9月の販売額は、大型家電量販店と横ばいとなったコンビニを除いて上昇した。ヒアリングでは、緊急事態宣言解除後に客足が増加したとの声があったが、自動車の納期の目途がつかず、新車注文のキャンセルが発生しているとの声も聞かれた。
- 観光は、8月27日から9月30日まで緊急事態措置区域に指定されたこと等に伴い、9月の客数は観光地、宿泊施設ともに、Go Toトラベルの実施期間であった前年及びコロナの影響を受ける前の前々年を大幅に下回っている。ヒアリングでは、感染拡大の第5波で大きな影響を受けたものの、直近では修学旅行や小グループ旅行、ビジネス出張の需要に回復の兆しが見られつつあるとの声も聞かれた。
- 企業の資金繰りは、9月の制度融資実績は、件数、金額ともに5ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からのヒアリングでは、為替や原油価格が取引先の収益性や資金繰りに与える影響を注視しているとの声も聞かれた。
- 雇用面は、9月の有効求人倍率は1.50倍と5ヶ月連続で上昇した。ヒアリングでは、雇用調整助成金を活用して従業員を休ませている企業もある一方で、今後の生産回復を見越した人材不足を懸念する声も聞かれた。